

令和6年度第2回滝沢市産業振興会議 会議録

1 会議の名称

令和6年度第2回滝沢市産業振興会議

2 開催日時

令和7年2月18日（火）午後1時30分～午後3時50分

3 開催場所

滝沢市役所3階 庁議室

4 出席状況

（1）滝沢市産業振興会議委員

役 職	氏 名	所属団体・役職
会長	市島 宗典	白鷗大学 法学部 教授
副会長	百目木 忠志	滝沢市自治会連合会 会長
委員	阿部 正喜	滝沢市商工会 会長
委員	中島 恒夫	一般社団法人滝沢市観光物産協会 会長
委員	渡邊 美香子	新岩手農業協同組合 滝沢支所 支所長
委員	金子 直史	株式会社東北銀行 滝沢支店 支店長

（2）滝沢市

所 属	職氏名
経済産業部	部長 木下 昇三
経済産業部 観光物産課	課長 朝岡 将人
経済産業部 農林課	課長 松本 理
経済産業部 企業振興課（事務局）	課長 佐々木 敬志
経済産業部 企業振興課（事務局）	総括主査 中野 亜希子
経済産業部 企業振興課（事務局）	主査 佐々木 佑

5 傍聴人の有無

なし

6 会議資料の名称

（1）次第

（2）資料1 産業振興に関する先進事例視察の報告について

（3）資料2 令和6年度産業振興事業実績

（4）資料3 令和7年度産業振興施策について

（5）参考資料1 滝沢市産業振興条例

（6）参考資料2 滝沢市産振会議運営要領

7 会議記録

(1) 開会

(2) 挨拶

会長より挨拶。

(3) 議事

会長が議長を務め、全ての内容を公開することについて、出席した委員から承認を受けた上で議事の進行がなされた。

①産業振興に関する先進事例視察の報告について

【進行】会長

事務局より視察内容の説明を受け、視察に参加した委員から意見・感想等を伺った後、委員等から質問と意見を伺う。

【説明】企業振興課総括主査

※別紙「資料1」の内容に沿って説明を実施。

【感想・意見】副会長

視察した上尾市、佐倉市ともに、人口規模、市制が施行された時期が滝沢市とは異なっており、長年にわたり産業振興に対する取組等をいろいろと進め、施策を展開していると感じた。また、両市とも、市の総合計画との整合性を図った第2次産業振興ビジョンを策定している。

滝沢市においては、ビジョンとは別に、年度ごとに産業振興施策を策定し、商工業、農林業、観光物産の分野において、その進捗状況や実績等について検証をしている。これも具体的で重要な取り組みであると思うので継続していただきたい。

上尾市では提言書を取りまとめ、市に提出しているので、滝沢市の産業振興会議においても提言書について検討する余地があると感じた。

【質問】副会長

滝沢市においてはビジョンを策定しているのか。

【回答】企業振興課長

滝沢市では産業振興ビジョンは策定していない。滝沢市総合計画において、産業振興に関して計画し実行している。このため、産業振興会議においても、総合計画の部門別計画に基づいて事業の実施状況や来年度の事業計画を説明している。

【補足】経済産業部長

これまで行政が策定する計画やビジョンの数が多かった。滝沢市では、総合計画の中に集約していこうという考えのもと、部門別に計画をつくり、4年毎にしっかりと政策を考えていくことにした。総合計画に不足があれば、補足できるものを今後検討したい。

【感想・意見】委員

視察した両市とも、産業振興の取り組みが長く行われている。また、知識や経験を持った方々と、話し合いを重ねられ、施策や予算に反映されていると感じた。

滝沢市は、中小企業に対する支援策等を展開する際に、商工会の会員ではない中小企業に対して周知を徹底できる仕組みがない。上尾市は、中小企業サポートセンターを設置しているが、そのような場所があれば、商工会に入らなくても支援内容等を知ることができると感じた。

県内で見ると矢巾町では、積極的に商工会会員になるように働きかけている。商工会の組織率にもつながると思うが、商工会に入会することで、いろいろな支援策やサービス等の情報を得られることを広く周知し、働きかけることも良いのではないか。新たにサポートセンターをつくらずともできることがあると感じた。

観光においては、佐倉市は、市単独ではなく周辺の市町村を含めた大きなエリアで観光事業を検討していると感じた。

また、両市とも産業振興に対する意見や要望を次年度以降の予算に反映する仕組みがあると感じた。

滝沢市もそのように進んでいかなければならないと思う。

【感想・意見】会長

今までの意見にもあったが、会議の位置づけについて学びとなる視察であった。特に上尾市では、産業振興の取り組みの歴史が長く、専門的な知識を持つ会長であるということもあるが、このような有識者会議の位置づけが重要である。有識者会議の内容がどのように施策や予算に反映していくかというのが、会議の意義であると思う。

滝沢市産業振興会議においても、いろいろな立場の方が参加しているので、それぞれの立場からの産業施策に対する意見を、いかに施策や予算に反映させていくかというのが、これからの課題となる。施策を考えるサイクルの中に、この会議が乗り切れていないのがもったいないと感じる。

また、上尾市は、各委員の意見を集約したものを提言書として提出して、この提言書を受け、事務局が施策に反映するというサイクルがうまく回っている。この会議においても、各委員の意見を施策に反映できるスケジュールの位置づけが大切となってくる。

これから滝沢市産業振興会議の位置づけ等を考えていくうえで、今回の視察が役に立つと感じた。

【回答】経済産業部長

委員からの意見にあった「中小企業に対する周知のシステム」については、対象となるすべての企業に周知が行き届く仕組みがあれば一番良いが、滝沢市としても悩んでいるところである。現在、滝沢市商工会と連携し進めているところであるが、たくさんの参加者がいるイベント等に参加し、名刺交換により連絡先を知っている企業等があれば、個別に周知に努めているところである。今後、関係機関と連携して周知する対象を広げていければと考えている。

また、商工会への入会については、来年度、物価高騰対策として支援金の給付を検討している。給付にあたっては、商工会に入会していることを条件としたいと考えている。そのような事業を通じて、商工会に入会する企業等を増やしていきたい。委員の意見のとおり、新たなサポートセンターを設置するとダブルスタン

ダードとなる可能性もあるので、商工会と連携を深め、商工会を通じて広く周知をしていくことが一番良いのではないかと考えている。

周知に関しては、大きな課題であると捉えているので、委員の皆様からの周知方法や情報等を提供いただきながら、進めていきたいと考えている。

【意見】委員

現在、滝沢市商工会の組織率は62%である。矢巾町は50%ちょっとで極端に低いので、入会を働きかけている状況であると思われる。

周知に関しては、滝沢市商工会では、今年度ホームページをリニューアルし、今後、スマートフォンで手軽にできるWebサイトを立ち上げる予定である。興味を持ってもらうことが大事であるので、観光物産協会や市と協力して盛り上げていきたい。

②令和6年度産業振興事業実績及び令和7年度産業振興施策について

【進行】会長

最初に「令和6年度産業振興事業実績について」を取り上げた後、「令和7年度産業振興施策について」を取り上げることにする。

令和6年度産業振興事業実績について、事務局より産業振興条例に規定する分野ごとに説明を受け、委員から質問と意見を伺う。分野ごとに担当課長より順次説明願いたい。

【説明】企業振興課長

※別紙「資料2」の内容に沿って説明を実施。

質問なし

【説明】農林課長

※別紙「資料2」の内容に沿って説明を実施。

【質問】委員

特産品のさつまいもを「滝沢かんしょ」としているのは何故か。

【回答】農林課長

「滝沢さつまいも」だと語呂が悪く言いにくい。ポスターやチラシでは「滝沢かんしょ」と表記している。「かんしょとは何だろう」と興味を持ってもらう効果もあると考えている。

【質問】委員

中学生を対象とした農業体験の写真に写っている家畜は羊か。

【回答】農林課長

市内で羊を飼育している農場の写真である。現在、繁殖が進み、子羊が多数産まれている。中学生は餌やり体験と毛刈り体験を行っている。

【質問】委員

資料に紹介されている滝沢市の特産品以外に、力を入れているものはあるか。

【回答】農林課長

特産品としては、ほかにイワナがある。イベント開催時に出店してもらっている。

【質問】委員

どちらかというと、収穫期が決まっている特産品が多いのか。

【回答】農林課長

なかなか通年で出荷できるものはないが、生産者の中には加工品に力を入れている方もいる。スイカの缶詰やスイカジュース等も販売されており、加工品についてもPRをしているところである。

【回答】経済産業部長

おっしゃるとおり、スイカやりんごは販売できる期間が限られるが、サツマイモは加工しやすいこともあり、加工品の生産に期待している。ただし、滝沢市は数を出せない状況にある。生産量が多い農家は出荷先が決まっている。例えば、滝沢市は酪農による牛乳の生産量が多いが、その大半が小岩井乳業に出荷されているので、特産品として見えにくい。姥屋敷には長芋や大根を大規模栽培している農家があるが、ほぼ出荷先が決まっている状況である。このように、特産品については、攻めにくいという背景を持つ状況にある。

【意見】委員

特産品になるものはないかと、日々考えている。先ほどの資料にあった羊の肉やワインが特産品になればよいと思う。

【回答】農林課長

羊は現在、頭数が100頭程度であり、ワインは今年初めてブドウの収穫ができ、これから醸造をどうしていくかを考えているところである。これから、これらを組み合わせていくことで、目玉となる特産品になると思われるので、推進していきたい。

【回答】経済産業部長

昨年秋に、滝沢で初めてブドウを収穫した。このブドウで作ったワインが今年の夏過ぎに販売されるので、楽しみにしていただきたい。

【意見】委員

市内で羊を飼育している農場の羊肉は、銀座、神楽坂、麻布十番にある高級焼肉店に出荷されており、できるだけ高級志向をターゲットにしているようである。

【質問】委員

市内には出回らないということか。

【回答】企業振興課主査

盛岡市内の数店の飲食店で提供されているようである。通常メニューではないので、予約が必要であると聞いている。

【意見】委員

希少価値が出て良いと思う。「なかなか食べられない」というのが売りになるのではないかな。

【意見】委員

ふるさと納税の返礼品になってくれれば良い。

【回答】観光物産課長

既にふるさと納税の返礼品として登録しているが、ものがない状況である。

【意見】 委員

スイカは、生産者が高齢化してきて、大玉スイカは生産が大変になってきていると思う。もう少し収穫に負担のないサイズの生産をしたらどうか。首都圏では大玉ではなくカットスイカを買い求める人が多い。

【情報提供】 委員

滝沢市周辺では、まだ、スイカといえば大きいものというイメージが根強い。若手の生産者では、多品種を手掛けるケースも増えてきている。

【情報提供】 委員

特産品開発については、観光物産協会と商工会と市で協議を重ねているところである。

【回答】 経済産業部長

スイカの販売については、全国的に見ると販売額の60%をカットスイカが占めていると聞いた。首都圏だと80～90%程度まで高くなるのではないかと推測している。

生産農家がカットして販売するまで手が回らない状況である。生産者と購入者の間で付加価値をつけながら加工を行うことができるよう、商工業者が関わっていけるかが課題となってくると考えている。

サツマイモについても、現在、干し芋に加工しているのは生産農家であるが、加工できる数には限界がある。スイカと同様に、加工販売を手掛ける組織が必要であると考えている。この部分が滝沢の大きな課題であると捉えている。

【質問】 委員

岩手山麓で、軽井沢のように高原野菜の生産はしていないのか。

時期をずらして出荷できれば、価値が出るのではないか。

【回答】 農林課長

そのような情報は聞いたことがない。農産品の収穫時期をずらして収穫できれば、1つの目玉になり得ると思われる。

【説明】 観光物産課長

※別紙「資料2」の内容に沿って説明を実施。

質問なし

【進行】 会長

続いて「令和7年度 産業振興施策について」を事務局より産業振興条例に規定する分野ごとに説明を受け、委員から質問と意見を伺う。分野ごとに担当課長より順次説明願いたい。

【説明】 企業振興課長

※別紙「資料3」の内容に沿って説明を実施。

【質問】 委員

施策3の大学未来共創事業の「意図やねらい」に記載のある市内に立地する大学は、岩手県立大学と盛岡大学の2つだと思う。事業実績の資料だと岩手県立大学と密に連携をとっていることがわかるが、今後、盛岡大学とはどのように連携していくのか。

【回答】企業振興課長

若者活躍推進室の事業実績で説明した、ミライプロジェクトには盛岡大学の学生も参加している。若者の活動については、岩手県立大学と盛岡大学が同じ割合で参加してもらっているという感触がある。

企業振興課が行っているICT産業集積関連の事業については、どうしても岩手県立大学との連携というのが強くなるが、学生との活動については、どちらの大学も同じレベルで考えている。

【意見】委員

産学官連携による地場産業の活性化という観点で言えば、来年度中心拠点の造成が終わり、いろいろなことがスタートする。滝沢市は核になる商業施設がなかったが、この機会に地場の商店に関する施策を盛り込んでもよいのではないか。

【回答】企業振興課長

検討していないわけではないが、まだ具体的な事業化まで至っていない状況である。中心拠点商業地区は令和8年度にオープン予定であるため、今後、検討していかなければならないと認識している。

【意見】委員

理解した。商工会も何らかの取り組みをしなければならないと考えているので、市と連携してやっていきたい。

【意見】委員

施策3の多様な連携による若者が活躍できる環境づくりと価値創造について、今まで、商工会も市も、高校生や学生に対していろいろな事業を行ってきた。今年、商工会でどれぐらいUIターンをしているのかの追跡調査に取り組もうと考えている。人材不足の世の中なので、企業調査をすることにより、今までの成果を数値的に検証したい。

【回答】企業振興課長

ぜひ連携しながら、取り組みとその評価をやっていきたい。

【説明】農林課長

※別紙「資料3」の内容に沿って説明を実施。

【質問】委員

ツキノワグマの出没件数は毎年増えているのか。

【回答】農林課長

令和5年度が突出して多かった。令和6年度は例年並みに戻ったが、人や音を恐れない印象がある。滝沢市だけではなく県内でも、人がいるところにも普通に出没するような感じになってきたので、対策を今までとは変えていかなければならないという感触を持っている。

【質問】委員

狩猟免許の取得は警察の管轄になるのか。

【回答】農林課長

狩猟免許取得の試験は岩手県が行っている。年に3回、複数会場で実施される。滝沢市の場合、岩手県立大学で年2回試験が行われる。その試験で、わなや銃の資格が取れる。銃の所持となると警察の許可の取得が必要である。

【質問】委員

狩猟者の数が減っているように感じるが、実際どうなのか。

【回答】農林課長

滝沢市の場合は極端に減っているという状況ではないが、エースの狩猟者が70代である。現在、常時対応いただける方が4人ほどいるが、全員70歳前後であり、自分たちがいつまでできるのかと感じているようである。若手の育成も必要であると考えている。

また今後は、少しずつ環境整備に力を入れて、通学路や藪になっている場所の刈払いを行い、クマを寄せ付けないようにしたいと考えている。

【質問】委員

滝沢市の食糧自給率はわかるのか。

【回答】農林課長

滝沢市では数字を出していない。岩手県であれば、自給率は100%を超えている。

【意見】委員

森林に関しては、全く知識がないのでわからない。産業振興会議の委員に、その分野がわかる方を加えてもよいのではないか。

【回答】経済産業部長

森林については、産業として事業を実施するのではなく、個人所有で放置されている森林、または個人が所有していることも把握しておらず整備されていない森林を行政が介入して整備していくものになっている。災害を防ぎ、森林が持つ多面的な要素を保持するために管理していくことを各市町村が行っているものである。ただし、滝沢市で森林整備に携われる事業所は少ないため、厳しい状況である。

【説明】観光物産課長

※別紙「資料3」の内容に沿って説明を実施。

質問なし③その他

【進行】会長

委員から発言したいことはあるか。

【意見】委員

産業振興会議の委員の数を増やしたらどうか。もっと様々な分野の方や市民の方の声を聞いても良いと思う。

【回答】経済産業部長

今後の産業振興会議の位置づけや方向性も含めて検討する。

【意見】会長

委員定数の件は、今年度視察報告の際に私が話した「産業振興会議の位置づけ」とも関連があると思うが、視察先では会議の委員の人数が多いからといって、何か

結論を出しているのではなさそうで、それぞれの立場からの発言を提言書としてまとめていた。

滝沢市は、10人までは条例を変えずに委員を増やすことができるので、今後の課題として検討いただきたい。

【進行】会長

以上で本日の議事を終了する。

（４）その他

【進行】企業振興課長

その他として、何かあれば発言願いたい。

【意見】経済産業部長

今年度の滝沢ミライプロジェクトでは、滝沢産グラノーラや大学イモ等をテーマに取り組んでいるチームがある。自治会連合会と共催で事業を行っているが、特産品につながるようなテーマだと、本日の会議で話題となったように、学生のアイデアと生産者をつなげ加工等に関わってくれる方が必要となる。商工会や観光物産協会にもお声をかけさせていただくので、興味のある方を紹介いただきたい。

若者が考えたアイデアを盛り上げていきたいと考えているので、３月８日に開催する最終成果発表会で発表を観覧いただきたい。

（５）閉会